

市長からのメッセージ



清野 和彦 秩父市長

少子化の進展に伴う公立高校の統廃合が全国的に進められている中、地域における高校の存在意義はますます重要なものとなってきています。
そのような中で、秩父市では令和5年度から市の地域おこし協力隊を魅力化コーディネーターとして県立の秩父高校に配置し、高校魅力化に取り組んできました。
この取組みが、秩父市を源として多くの人々を潤す荒川のように、やがて大きなうねりとなって秩父地域全体の魅力化へとつながっていくことを願っています。

「わたし」から見た秩父高校魅力化プロジェクト

「高校魅力化プロジェクト」の特徴は、様々な立場の人びとが高校生の学びに関わることです。
それぞれの立場から見たプロジェクトやコーディネーターの印象を伺いました！



杉本 智咲 さん

神田外語大学スペイン語専攻
令和6年度卒業生

先生に言うほどでもない、でも親には言えない。そんなちょっとした「どうしよう」を気軽に相談できる大人でした。海外で色々な経験をしてきたコーディネーターさんと話したことが、自分の進路選択のヒントにもなりました。学校生活が豊かになり、自分の将来を広げるきっかけのひとつ。それがコーディネーターの存在だと思います。



鈴木 文哉 さん

埼玉県立秩父高校 教諭
「総合的な探究の時間」担当

コーディネーターのお二人には学習講座や考査期間中の学習室を開いていただいたり、生徒の相談にのっていただいたりと多くの場面で力を貸していただき、ありがたい限りです。総合的な探究の時間では、地域と学校をつなぐ役のみならず、生徒の活動に対してのアドバイスや授業づくりを一緒にしてくださり充実した活動ができています。



館 今宵 さん

こども食堂ぱくぱく 代表
令和6年度総探発表会ゲスト

「こんな授業が昔あれば、進路が変わっていたかも…」総探の発表会に地域ゲストとして参加し、そう感じました。進学や就職を考える高校時代だからこそ、地域社会に一步でも踏み込めるこの機会が、生徒達に必要な経験になったのではないのでしょうか。生徒のまっすぐな姿に心打たれ、地域の未来にワクワクしています！



逸見 敏郎 さん

立教大学文学部 教授
令和6年度総探発表会ゲスト

「総合的な探究の時間」は、教科書が無く教員にとっても難しい授業だ。そこで教員に併走し、「主体的・対話的で深い学び」を生徒が実践する支援役を担うのがコーディネーター(CN)である。CNは学内外に学びの繋がりを構築、生徒が発見した課題を自ら深掘りし、その課題の持つ意味や解決の方途を導き出す支援をする唯一無二の存在と言えよう。

秩父高校魅力化プロジェクト



秩父市では、高校と地域を繋ぐ「高校魅力化コーディネーター」を、埼玉県立秩父高校に配置。
荒川の源流を湛えるふるさとの恵みを糧に、未来という大海へ漕ぎ出そうとする高校生の学びを、優しい流れのように後押しします。

発行者

秩父市役所
総合政策課

令和7年8月発行

TEL 0494-22-2823

FAX 0494-24-7272

MAIL seisaku@city.chichibu.lg.jp

秩父高校魅力化
プロジェクト
公式Instagram



@CHICHIBU.HIGHSCHOOL

学校から地域社会へ、そして未来へ 流れを生み出す コーディネーター

令和4年4月に改訂された高等学校の新学習指導要領では、＜社会に開かれた教育課程＞が掲げられました。地域・企業・大学など、社会のさまざまな主体と高校を繋ぎ、生徒の幅広い学びの機会を創出する。それが「高校コーディネーター」の役割です。令和6年時点では、全国で313人の高校コーディネーターが配置されています。

秩父市では、令和5年度から「秩父高校魅力化プロジェクト」として、埼玉県立秩父高校に「高校魅力化コーディネーター」を2名配置しています。令和7年現在、埼玉県内では秩父高校が唯一「コーディネーターのいる高校」となっています。

私たちは、高校生の挑戦を優しく促すような流れを生み出したいと考え、活動しています。学校の先生や同級生はもちろん、コーディネーターや地域の方々ともいっしょに進む、学びの流れ。その旅の途中では、自分だけでは思いもよらなかった、きれいな石が見つかるかもしれません。



吉川 晃太

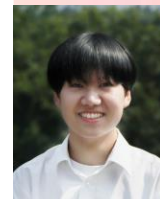
神宮 一樹



校内・校外自習スペース

ひとりで、みんなで、高め合う

定期考査期間に、校内図書館棟を自習スペースとして夜8時まで開室しています。長期休みなど校舎が使えない期間には、市の公共施設でも自習スペースを用意しています。コーディネーターが常駐するため、勉強の質問や相談も気軽にできます。



菅間 遥朱 さん

家ではなかなか勉強に集中できないので、長期休みもテスト期間も自習スペースを利用しています。遅い時間まで開室してくれるので、勉強時間も長くなりました。一人でも、友達といっしょでも、とりあえず足を運んでみるのがおすすめです。ちなみにコーディネーターさんとは部活動で一緒に登山したことが良い思い出です！



アニメプロジェクト

「好き」を出発点に、創る

秩父アニメツーリズム実行委員会とコラボし、課外プロジェクトを実施しました。令和5年度は「あの日見た花の名前を僕達はまだ知らない。」のグッズ制作、令和6年度は「心が叫びたがってるんだ。」にちなんだ「ここさけ大会」を実施しました。



黒澤 心愛 さん

もともとアニメが好きで、担任の先生に勧められて参加しました。コーディネーターさんは、答えというより、目的を達成するまでの手順をひとつずつ教えてくれて、いっしょにやってくれます。少しでもやりたい気持ちがあったらやってみて、困ったら聞いてみる。気づいたら、想像していた以上の大きなことができていました。

総合的な探究の時間

自分に向き合い、世界と繋がる

多岐にわたる活動の中で、高校魅力化事業の中心となっているのが「総合的な探究の時間」の支援です。地域人材との接続、カリキュラム作成の伴走、授業進行など、さまざまな形で生徒と教員をサポートしています。



西田 夏歩 さん

「祭り」をテーマに探究し、東京の高校生に秩父を案内したり、都内の大学で発表したりしたのが楽しかったです。探究活動が行き詰っているとき、コーディネーターさんは「これはどう？」とイベント参加の機会を作ってくれました。自分の活動の幅が広がり、コミュニケーション能力も向上し、将来に活きる授業だと思います。



「総合的な探究の時間」とは？

自分と社会の関連から課題を発見する能力や、その課題を解決する能力をつけることなどを目的として設置されている授業で、カリキュラムは学校ごとに定められています。秩父高校では、生徒が地域の方々と協働しながら課題解決に取り組む授業を行うなど、地域社会にひらかれた学びの場を展開しています。



秩父の養蚕を子どもに知ってもらうための繭玉キーホルダーづくり



秩父のお祭りがもつ魅力を観光客に伝えるための動画づくり

哲学対話

じっくり考えて、問う

生徒が日々の生活の中で出会う問いについてじっくり考えながら、考えの異なる他者との対話に親しむために、「哲学対話」という活動をコーディネーター主催で放課後に実施しています。



島田 拓弥 さん

もともと興味のあった「哲学」というワードに惹かれて参加しました。高校の中にクラスや部活動以外の居場所がただでなく、対話を通して自分の思いを表現する力や進路への考えが深まったと感じています。秩高生が素の自分で見られるところとして、自分が卒業した後が秩父高校に残っていてほしい場です。

